

トルコぎきょうの栽培暦

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
秋まき	9/上 -----11/中 ---10-+												
夏出し	-5	--10	+-----15	-----				加温(最低15)					
	----- 無加温												
冬春まき	1/下	-	2/上--	3/中--	4/中-----				注) : 播種				
夏秋出し	3/下			-----5/下				: 定植					
	#####短日処理												
	5/上						-----6/下			: 開花			

目標収量
8,500 本/100 坪
収穫率 80%以上
定植本数 10,800 本/100 坪
108 本/坪
ﾊﾞｯﾄ幅 60cm、通路 50cm
栽植密度 10×10cm
中央 2 条抜き 4 条植え

栽培のポイント

- ・地温 15～25 の適温で定植する。
- ・直根性でごぼう根、適地温をはずれると根張りが悪い。
- ・本葉 2～2.5 対葉の適期苗で定植する。
- ・排水を確保する。また、極端な水切りはしない。

<栽培特性>

(1)生育適温 15～25

(2)高温吐ッ

平均気温 25 以上かつ最低気温 20 以上で発生。
(昼温 30 以上、夜温 20 以上。乾燥等のストレスで発生が助長される)

<品種>

早生(キダマズ、刈カヅ、彩の雪など)

中生(エコーザリズ、アホリス、サマエス、サマヒチなど)

中晩生(つくしの雪、つくしの羽衣など)

1 育苗

<発芽まで>

発芽適温: 20～25 発芽日数: 14 日

最低 15～20、最高 25 前後で管理する。

<発芽後>

最低: 10～15、最高 25 を目安に管理する。

(1)288 穴トレイにミックス等の用土を使用する。

(2)マイクログ 3g/1 混用または、本葉展開後液肥で追肥。

(3)トルコぎきょうは好光性種子なので、覆土はしない。

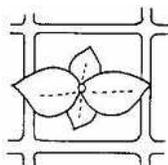
2 ほ場の準備

(1)第 1 回目の耕うんは、軽く握ってできる土の塊が指で触って崩れる程度の水分状態で行う。

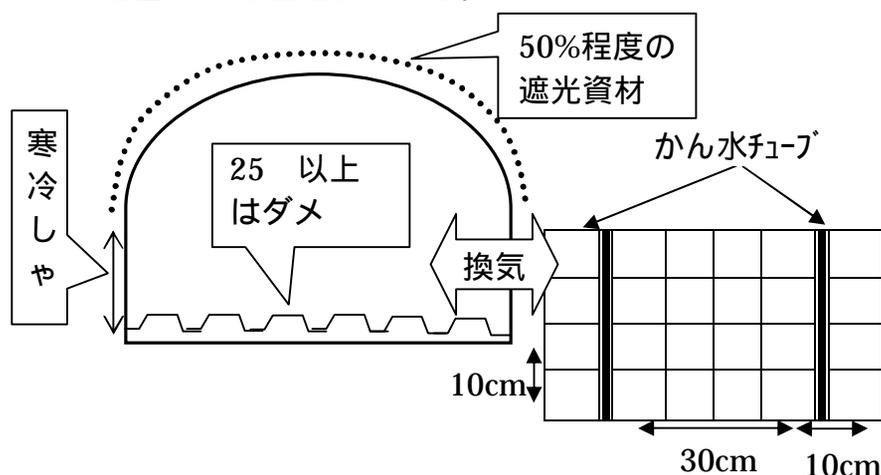
(2)基準施肥量を土畑は 10kg/10a、砂丘地は 13kg/10a とし、肥料を少なめにし、追肥で加減する。

(3)石灰分は pH を測定し加減する。

(4)施肥は定植 1 週間前までに行う。高温時の定植は遮光して地温を 20 以下に抑える。冬期はマルチで保温し、地温 10 以上を確保する。



定植苗



土畑の施肥例(100 坪当たり) 堆肥 500kg 施用

基肥 有機&I 付 25～35kg

(BM ようりん 10～15kg)

石灰は、土壌 pH で施用量調整。

追肥 液肥 7～10kg

砂丘地の施肥例(100 坪当たり) 堆肥 500kg 施用

基肥 ロング M140 20kg

有機&I 付 20～25kg

(BM ようりん 30～50kg)

石灰は、土壌 pH で施用量調整

追肥 液肥 10～15kg

3 定植

(1)高温時の定植では、定植 1 週間前～定植 1 週間後まで 50%程度の遮光を行い地温を下げる。

(2)は種 50～60 日後、本葉 2～2.5 対葉で定植。根を傷つけないように丁寧に植え、株元も押さえつけない。

(3)マルチを使用する場合は白黒ダブルマルチとし、5 月中旬～6 月定植までは白面、秋～5 月上旬定植は黒面を表にする。

(4)定植後、丁寧に柔らかい水流でかん水する。

4 温度管理

夏期: 最高 28 以下目標。

冬期: 目標 10 以上に加温(最低 0 以上に保温)。

5 水管理(土質により加減)

定植直後: 表面が乾かないようかん水。

(活着までは十分に気をつけて適湿管理)

活着以降: 生育を確認して乾かし過ぎないように適宜かん水する。

発らい以降: ややかん水を控えめにしていく。

開花前: 土畑では第一花のつぼみが色づき始めた頃から、水を切る。

砂丘では第 1 花開花初めに最後の追肥を行い、かん水を控えていく。

6 側枝の整理

最下位の側枝は必要ないので、上部に側枝を確実に残し、下位側枝は 2～3 cm 時に早めに摘み取る。

7 病虫害防除

(1)灰色かび病: 湿度の高いときなどは送風機を回す。

(2)アザミウマ: 開花後に増加。早期防除。

8 収穫

3～5 輪開花時に収穫し、開花 1 輪当たりつぼみ 1 個程度に調製し出荷。頂花は開花時に早めにつみ取る。